

SSRI

ちよつと言

Give me a break !

トランプ米政権初の「国防戦略」（NDS）の概要

樋口 譲次

○地位及び特徴

マティス米国防長官は、2018年1月19日、トランプ政権初の「国防戦略」（NDS）を公表した。2017年12月公表の「国家安全保障戦略」（NSS）を受けて作成されたもので、このNDSに基づき、「国家軍事戦略」（NMS）が今年後半に公表される予定である。（以上が、米国の戦略3文書）

例年は、NDSの全文が公表されていたが、今回は秘密に該当しない内容を要約書（11頁）の形式にして公表した。本来、「戦略は秘匿されるべきもの」との認識に基づくトランプ政権の処置と見られる。

内容は、中国の海洋侵出による脅威認識の高まりにともなった「リバランス戦略」への転換や、ロシアのクリミア半島併合を「侵略」と名指しで非難したオバマ政権後半の認識と方針をほぼ継承し、NDSの焦点を中国とロシアとの長期的な戦略的競合への対応に明確に定める方針を打ち出しているのが特徴である。

○戦略環境（情勢・脅威認識）

中国とロシアを、国際秩序の現状変更を目指す「現状変更勢力」だと位置付け、また、核ミサイル（生物・化学兵器）開発を継続する北朝鮮とイランを「ならず者国家」だとし、地域や国際社会を不安定化させていると指摘している。中国については、「軍事力の増強・近代化を追求し、近いうちにインド太平洋地域で覇権を築くことを目指している」とし、「将来的には地球規模での優位を確立し、米国に取って代わろうとしている」と指摘している。また、ロシアについては、「周辺国の国境を侵犯したり、経済や外交などの政策決定に影響を及ぼしたりしている」と批判し、核戦力の拡大や近代化に警戒感を示した。

○国防戦略の方針と重視事項

その上で、「いまやテロではなく、大国間の（軍事）競争が国防の最重要の焦点だ」と述べ、中国やロシアとの長期的な戦略的競合への対応に最優先で取り組む方針を鮮明にしている。そして、核兵器・宇宙サイバー空間を含み、アメリカの軍事的優位を維持するため、①「軍事力の近代化と増強」を急ぐとし、これと並ぶ取り組みとして②「同盟関係の強化」を挙げた。そして、「同盟国には、互いの利益となる集団安全保障（共同防衛）に寄与するよう公平な負担を期待する」とし、アメリカの軍事的優位の低下を補う考えを滲ませている。

○日本への影響

日本への直接的言及はないが、「ネットワーク化された安全保障体系に向けてインド太平洋地域の同盟国を強化していく」と述べており、集団安全保障（共同防衛）への一層の貢献を求められることになる。

（2018年1月23日）